



尾輪が水中舵を兼ねた 水陸両用のオリジナル飛行艇 OS15FPエンジンを 主翼上部にマウント

レイクスター

キット製作のかたわら、大型機から変形機までオリジナルモデルの設計・製作に余念のない安藤由隆氏（横浜市）。毎年この時期になると水上機に食指を動かすのが常というが、今回はご覧のような一風変わったオリジナル飛行艇を作り上げた。こんな実機があればいいな、という願望をイメージした機体で、なんと水陸両用！ 水上機の場合はメイン・ギヤを折りたたみ、尾輪が水中舵として機能する仕組みだ。使用エンジンは15クラスと手軽なサイズで、一見複雑そうな胴体も作ってみると意外に簡単。3日もあれば生地完成までこぎつけられるというから、ちょっと変わった機体で今シーズンに間に合わせたいという人は、ぜひ作ってみてはいかが？ ラダー機とはいえ、ループやロールなどの軽曲技は可能で安定性も抜群、飛んでいるときのムードもなかなかのものだ。



- ↑ハンブからプレーニングまできれいに入り、わずか10mほどの滑水で水面を離れる。翼端フロートの容積も充分で、直進性も抜群。“水中舵”の利きも申し分なかった。
- ↓「レイクスター」を手にする製作者の安藤由隆氏。全幅1220mmと小柄な機体だ。



↑機体はバルサで組み、絹をドーブで張ってからウレタン（イリサワ製のスプレー）で着色して仕上げています。主翼翼型はクラークYで、前縁部は上面のみブランク。主翼と尾翼は張り線で連結。写真はメイン・ギヤを引き出してロッドで固定し、陸上機仕様としたところ。



★詳細は今号167ページ